

RANE MP2015

MIXER MANUAL



RANE MP2015 MIXER MANUAL

著作権に関する注意事項

Raneは、inMusic Brands,Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。Windows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Apple、Mac、Macintosh、iTunes、Safari、QuickTime、GarageBand、およびOS Xは、米国およびその他の国におけるApple Inc.の登録商標です。

ASIOは、Steinberg Media Technologies GmbHの商標です。Traktor、Traktor ProおよびMaschineは、Native Instruments GmbHの商標です。VirtualDJは、Atomix Productions Inc.の登録商標です。

AbletonはAbleton AGの商標です。他のすべての製品名、会社名、商標、または商号は、それぞれの所有者のものであります。

同梱物

- MP2015 ミキサー
- ソフトウェア・ダウンロードカード
- MP2015ミキサーマニュアル / 保証書
- USBケーブル1本
- IEC電源ケーブル

安全にお使いいただくために

製品をご使用の際は、以下の使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を必ずお読みください。
2. 注意事項を必ずお守りください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むその他の音楽機器など、熱を生じる機器の近くには置かないで下さい。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほか棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに乗せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフターサービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低15センチ離し、風通しの良い場所でご利用ください。
16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカーで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
17. 水がかかるといった場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。



このマークのついた製品は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に、アダプタのアース線を接地してご使用ください。

お問い合わせ

inMusic Japan株式会社 カスタマー・サポート部
〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23 オーク南麻布ビル6F

[サポート] rane-dj.jp/support
[Web] rane-dj.jp/

目次

著作権に関する注意事項	2
同梱物	2
MP2015の概要	4
接続	6
デッキ入力チャンネル	7
セッション入力と出力	8
サブミックス	8
マイク入力	11
ヘッドホン・キューイング	11
メイン・ミックス出力	11
USBオーディオ	12
DJの交代	13
クラスコンプライアントUSBポート	14
コントロールパネル	14
MIDIマッピング	16
MIDIインプリメンテーション	18
技術仕様	21
マウントイヤークセサリー	22
EU適合宣言	23

MP2015の概要

最高品質のユーザーコントロール・サーフェス

- 人間工学に基づく直感的で操作性に優れたレイアウト。
- 優れた感触と100万サイクルの寿命を備えたポテンショメーター。
- スタジオ・コンソール品質のバックライト付きプッシュ・スイッチ。

デジタル信号処理

- A/DおよびD/Aダイナミックレンジは、116 dB Aウェイト、THD+N 0.0009%。
- すべてのオーディオ処理は32ビット浮動小数点で行われ、サポートされているサンプルレートは、44.1 kHz、48 kHzまたは96 kHz。
- 各デッキおよびセッション入力に対応するS/PDIF入力端子。
- 超低ジッターと、16:1 SRC変換範囲を備えたダイナミックレンジ128 dB。
- S/PDIFをアナログ変換することなく、ミックス録音または別のミキサーへ接続可能なセッション出力端子。

2台のコンピュータを同時に接続可能な2つのUSBポート

- 各USBポートは、10の再生チャンネルと14の録音チャンネルをサポート。
- 4つのデッキ、サブミックス、セッションイン、メインミックスを同時録音。
- USB 2.0の高速クラスコンプライアントのMIDIおよびオーディオ。
- Mac OS Xでは、ドライバのインストール不要。
- Windows用の高性能ユニバーサルASIOドライバ。
- ユーザーコントロールパネルは、ユーザーオプションとステータスをサポート。

細部に配慮して設計されたアナログI/O

- ローパス・フィルターおよび超低周波数フィルターを装備した、高精度低ノイズのRIAAステージ。
- 過渡電圧およびEMI保護、ミュートおよび過負荷保護機能。
- 8 Vrmsバランス出力、4 VrmsアンバランスI/O。

以下の機能を備えた4つのデッキ・インプット

- ゲイン・トリムとRIAAフォノ感度を備える、USB A、PH/CD、AuxまたはUSB B入力を装備。
- デッキ1 USB再生チャンネル1-2
- デッキ2 USB再生チャンネル3-4
- デッキ3 USB再生チャンネル5-6
- デッキ4 USB再生チャンネル7-8
- 3バンド・フルカットEQと2つの選択可能なクロスオーバーポイントを装備：2段階目にLinkwitz-Rileyフィルターを装備。
- 4段階目に、モード、レゾナンス、On/Offのコントロール機能を備えたローパス、ロー/ハイパス、またはハイパス・フィルターを選択可能。
- メインミックスレベル・コントロール、ヘッドフォン・キュー、サブミックス・アサイン、ピークホールド機能付き16セグメントQピークメーター。

レベル・コントロールによるセッション入力

- ソースにはアンバランスRCA、S/PDIFまたはUSB Aux再生チャンネル9~10を装備。
- サブミックスは5番目のインプット・チャンネルとして機能し、メインミックスまたはサブミックスに割り当てることができます。

48Vファンタム電源とラインレベルを切り替え可能なマイク入力

- コンボXLRと1/4インチTRS入力端子。
- コンデンサーマイク、ダイナミック・マイク、またはライン・レベル（ワイヤレス）入力に使用可能。
- 入力レベル・コントロール、1ノブ・トーンコントロール、オン/オフ・スイッチ、ダックコントロール。

ユニークなサブミックス機能

- 任意の数の入力チャンネルをグループ化する、簡単で直感的なマルチソース・ミキシング。
- デッキ入力のような、共通のコントロールセットを装備したサブミックス・チャンネル。
- イン/アウト、ウェット/ドライ・コントロールを装備した、アサイン可能な高感度外部エフェクト・ループ。

高性能統合型アイソレーターEQ

- Linkwitz-Rileyの4段階目に、調整可能なクロスオーバーポイントを備えた、非常に滑らかな3バンド・アイソレータを装備。

16セグメントのステレオメーターを装備したメイン・ミックス

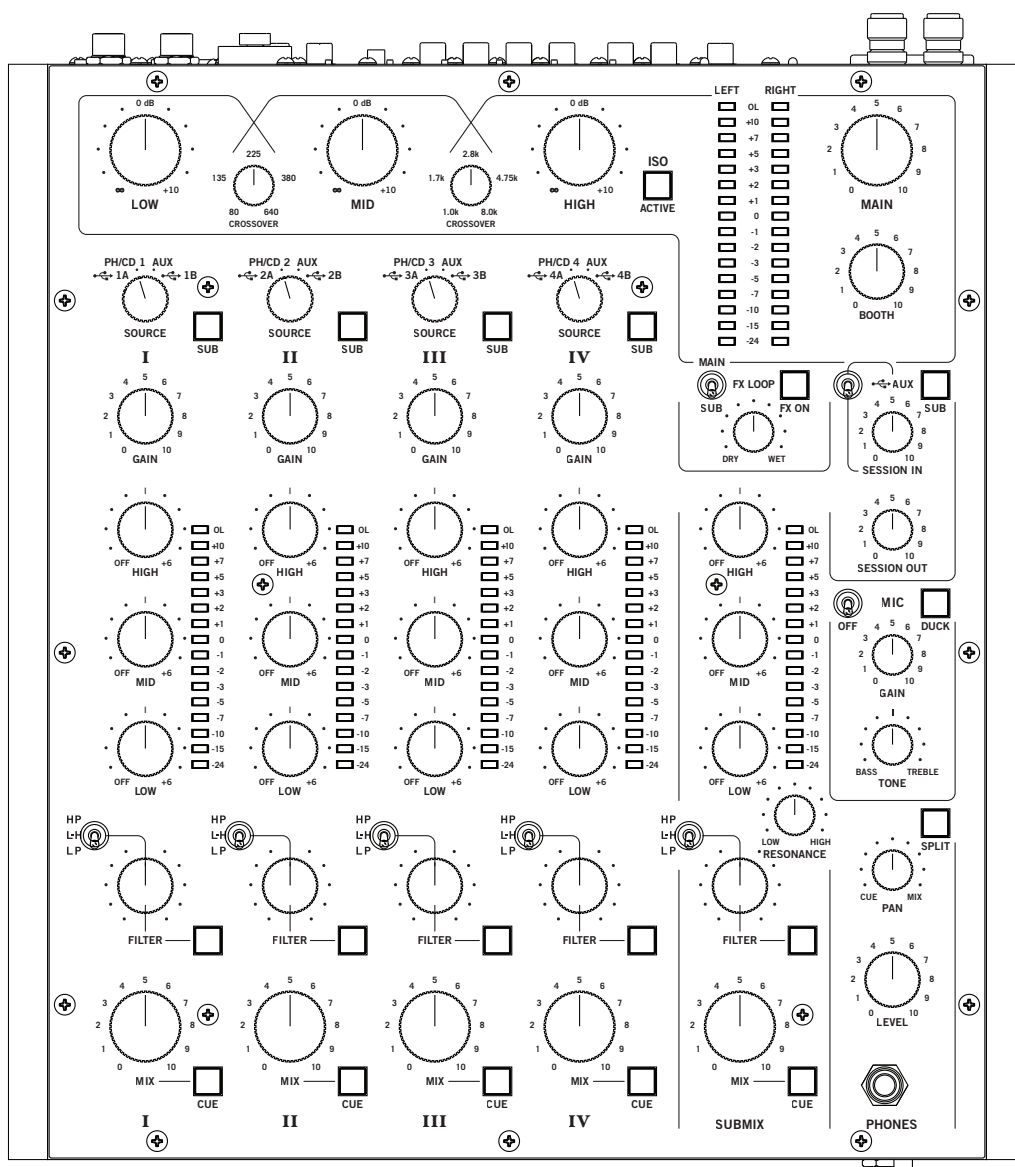
- レベル・コントロール付きバランスXLRメイン出力。
- 1/4インチ TRSブース出力 (バランス)。
- レベル・コントロール付きセッション出力。
- デジタル録音または外部ミキサー接続用のS/PDIF出力。
- RCAアナログ出力 (アンバランス)。
- エフェクトループは、メインミックスまたはサブミックスに割り当て可能。

ヘッドフォン・モニター

- レベル・コントロール、キュー/メイン・パン、モノ・スプリットまたはステレオ・キュー。
- トッププレートとフロントパネルには3.5mmと1/4インチの端子を装備。

USBレコード出力:

- USBレコード・チャンネル1-2: デッキ1のポストフェーダー (デフォルト)、プリフェーダーはオプションでコントロールパネルにて設定。
- USBレコード・チャンネル3-4: デッキ2のポストフェーダー (デフォルト)、プリフェーダーはオプションでコントロールパネルにて設定。
- USBレコード・チャンネル5-6: デッキ3のポストフェーダー (デフォルト)、プリフェーダーはオプションでコントロールパネルにて設定。
- USBレコード・チャンネル7-8: デッキ3のポストフェーダー (デフォルト)、プリフェーダーはオプションでコントロールパネルにて設定。
- USBレコード・チャンネル9-10: メイン・ミックス
- USBレコード・チャンネル11-12: サブミックス。
- USBレコード・チャンネル13-14: セッション入力。



接続

ミキサー入力

- 4つのそれぞれのチャンネルには、赤と白でペアとなるステレオ・フォノ/ CDのRCA入力端子が装備されています。CDプレーヤーにS/PDIF出力が装備されている場合は、それらをオレンジ色のS/PDIF入力に接続します。背面パネルのスライド・スイッチを使用して、各チャンネルをPH、CDまたはSPに設定できます。未使用の入力チャンネルは、CDに設定してください。PH入力を使用している場合は、リアパネルのグラウンド・ポストにターンテーブルのアース線を接続してください。
 - コンピュータコントロールパネル: 音源レベルに合わせてフォノ感度を調整します。14ページ「コントロールパネル」を参照して下さい。
- ステレオ・アンバランスのAux入力RCA端子を1系統装備。この入力は、4つのデッキ・チャンネルのいずれかで選択できます。
- 1系統のステレオ・セッション入力は、赤と白のRCA端子でアナログとして、またはオレンジ色のS/PDIF端子を使用してデジタルで使用できます。LINE / S/PDIFスイッチで入力タイプを選択します。この入力を使用して2つのミキサーを接続します。S/PDIFセッション入力を別のミキサーのS/PDIFセッション出力と接続すると、ミキサーをアナログに変換することなくデジタル接続できます。
 - この入力は、メインミックスまたはサブミックスに割り当てられたミキサーのAux入力としても機能します。サブミックスに割り当てられている場合は、最初の4つのチャンネルと同様に、独自のトーンおよびフィルターコントロールを備えた5番目の入力として機能します。
- コンビネーションTRS / XLRジャックのバランス・マイク入力を、次のように切り替えることができます：
 - ワイヤレス・マイクレシーバー出力のライン・レベル。
 - 一般的なダイナミック・マイクのマイク・レベル。
 - +48 Vコンデンサーマイクのファンタム電源。
- ステレオFXループ・リターン入力は、ペアのRCA端子（アンバランス）です。通常、FXリターン入力はFlexFXセンド出力と組み合わせて使用され、外部エフェクト・プロセッサに接続します。

ミキサー出力

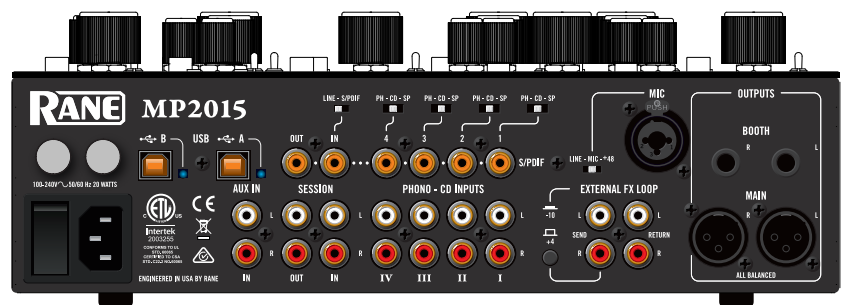
- 以下のアウトプットは、すべて同じメインミックス信号を通り、それぞれ独自のレベル・コントロールを備えています：
 - 1組のXLR端子（バランス）を用いたMain出力。
 - 組の1/4インチTRS端子（バランス）を用いたBooth出力。
 - 1組のRCA端子（アンバランス）を用いたSESSION Outと、RCA端子を用いたS/PDIF経由のデジタル出力。
- 1組のRCA端子（アンバランス）を用いたFX Loop Send出力が装備されています。FlexFXセンド出力は通常、外部アナログ・エフェクトを接続するためにFlexFX Loop Return入力と組み合わせて使用されます。メイン・ミックスはエフェクトに送られます。
 - SEND出力レベルは、-10（アンバランス・デバイスの場合）または+4（バランス・デバイスの場合）に切り替えることができます。
- 配線時の注意：アンバランスの1/4インチのチップ、スリーブケーブル、またはアナログ・セッション出力からのRCAケーブルによるブース出力を行う場合、ハムノイズと干渉を避けるため3メートル以下のケーブルを使用してください。長い距離の配線時の問題を避けるため、1/4インチTRS（バランス）またはXLRケーブルを用いるのが最良の選択です。

2つのUSBポート

MP2015は2台のコンピュータを同時に接続することができ、各ポートは完全に独立しています。USBポートは、100%クラスコンプライアントで、追加のドライバを必要とせずにMac OS Xと接続できます。多くのWindowsのDAWおよびDJソフトウェアは高性能ASIOドライバを介してオーディオ接続します。MIDIエンドポイントは、OS XとWindowsデバイスの両方に使用できるクラスコンプライアントです。いずれかのポートを1台のコンピュータに接続します。14ページの「クラスコンプライアントのUSBポート」を参照してください。

電源

MP2015ミキサーは、100~240VAC、50または60 Hz（世界のほとんどの場所で使用されている）のAC電源で動作する内部ユニバーサル・スイッチング電源を備えています。旅行中に必要なのは、地元の電子機器店から入手できる適切なIECラインコードです。普遍的な電源供給は旅するDJにとって大きなメリットとなります。このミキサーはオン/オフ・ミュートングを備えていますが、他の全ての機器が接続されるまで、電源を抜いておくことをお勧めします。



デッキ入力チャンネル

ソースセレクトター

ソースセレクトターは、アクティブなUSBポート、USBオーディオ・スロット、または各入力チャンネルのアナログ入力を選択します。USBの再生を使用するには、DJまたはDAWのソフトウェア設定パネルでUSBスロットを割り当てる必要があります。

デッキ1ソースの選択	デッキ2ソースの選択	デッキ3ソースの選択	デッキ4ソースの選択
<ul style="list-style-type: none"> 🔌 デッキ1ポートAの再生 • USBオーディオ・スロット1-2 • デッキ1のオーディオとMIDIをUSBポートAとの間でのみルーティングします。 	<ul style="list-style-type: none"> 🔌 デッキ2ポートAの再生 • USBオーディオ・スロット3-4 • 2のオーディオとMIDIをUSBポートAとの間でのみルーティングします。 	<ul style="list-style-type: none"> 🔌 デッキ3ポートAの再生 • USBオーディオ・スロット5-6 • デッキ3のオーディオとMIDIをUSBポートAとの間でのみルーティングします。 	<ul style="list-style-type: none"> 🔌 デッキ4ポートAの再生 • USBオーディオ・スロット7-8 • デッキ4のオーディオとMIDIをUSBポートAとの間でのみルーティングします。
<ul style="list-style-type: none"> • Phono / CD 1 • リアパネルのPH-CD-SPスイッチでセットします。 	<ul style="list-style-type: none"> • Phono / CD 2 • リアパネルのPH-CD-SPスイッチでセットします。 	<ul style="list-style-type: none"> • Phono / CD 3 • リアパネルのPH-CD-SPスイッチでセットします。 	<ul style="list-style-type: none"> • Phono / CD 4 • リアパネルのPH-CD-SPスイッチでセットします。
<ul style="list-style-type: none"> • Aux入力 (すべてのセレクトタに共通) 			
<ul style="list-style-type: none"> 🔌 デッキ1のポートBの再生 • USBオーディオ・スロット1-2 • デッキ1のオーディオとMIDIをUSBポートBとの間でのみルーティングします。 	<ul style="list-style-type: none"> 🔌 デッキ2のポートBの再生 • USBオーディオ・スロット3-4 • デッキ2のオーディオとMIDIをUSBポートBとの間でのみルーティングします。 	<ul style="list-style-type: none"> 🔌 デッキ3のポートBの再生 • USBオーディオ・スロット5-6 • デッキ3のオーディオとMIDIをUSBポートBとの間でのみルーティングします。 	<ul style="list-style-type: none"> 🔌 デッキ4のポートBの再生 • USBオーディオ・スロット7-8 • デッキ4のオーディオとMIDIをUSBポートBとの間でのみルーティングします。

MP2015を2台目のコンピュータと共有する場合の詳細については、「DJの交代」を参照してください。

デッキソースの選択に続いて:

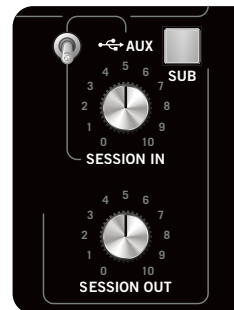
- GAINトリム
 - オフから+15 dB、12時の位置で標準ゲイン。
- 3バンドHIGH / MID / LOWトーン・コントロール
 - オフから+6 dB、12時の位置で標準ゲイン。
 - Linkwitz-Rileyの2次機能として、アイソレーター・フルカット・フィルター (LR-2)。
 - Low / MidとMid / Highのクロスオーバーポイントは、LowとMidの間で300 Hz、MidとHighの間で3 kHzがデフォルトになります。これはデッキごとに変更できます。14ページの「コントロールパネル」を参照してください。
- ハイパス/ロー・ハイパス/ローパス・スイープフィルター
 - LP: ノブを反時計回りに回すと、ローパス・フィルターカットオフが20 kHzから20 Hzに移動します。
 - HP: ノブを時計回りに回すと、ハイパス・フィルターカットオフが20 Hzから20 kHzに移動します。
 - L-H: Low-Highモードの場合、中央位置ではフィルターはかかりません (フラット・レスポンス)。
 - ローパスは中央位置から反時計回りに回転させます。
 - ハイパスは中央位置から時計回りに回転させます。
 - レゾナンスは、RESONANCEコントロールを使用して、すべてのスイープフィルターに対して調整できます。
- CUEセレクト
 - ヘッドフォン・モニターにデッキを割り当てます。
- ピークホールド付きQピークメーター
 - ピーク時に信号が黄色になるようにGAINコントロールを調整し、過大入力を防止します。
- MIXコントロール
 - USBレコード出力、サブミックス、またはメインミックスに送るチャンネル・レベルを調整します。
- サブミックス
 - SUBボタン (ソースセレクトターの隣) を押して青色に点灯させると、デッキがサブミックスに送られます。このボタンがオフの場合、チャンネルはメインミックスに送られます。詳細は8ページの「サブミックス」と、11ページの「メインミックス出力」を参照してください。



セッション入力と出力

セッション入力ソースは、RCA (アンバランス)、デジタルS/PDIF、またはUSBオーディオ・チャンネル9/10です。セッション入力を独立して使用することで、ミキサーに追加のステレオ入力を行えます。

セッション入力用RCAの赤と白の端子には、ラインレベルのデバイス (CDプレーヤー、別のDJミキサー、iPod、iPhoneなど) を接続します。オレンジ色のS/PDIF入力には、単一のRCAケーブルを使用してデジタル・デバイス (例えば、CDJ 2000または別のMP2015ミキサー) を接続します。ジャックの上にあるスイッチを使用して、S/PDIF入力またはRCA入力をソースとして選択します。また、セッション入力レベル・コントロールの隣にあるトグル・スイッチを使用して、USB Auxオーディオ・チャンネル9/10をセッション入力ソースとして選択することもできます。



セッション出力は、アンバランスなアナログの赤と白のRCAジャックと、オレンジ色のデジタルS/PDIFジャックで利用できます。これらの出力は、ミキサー同士をつなげる場合にセッション入力と組み合わせたり、メインミックス・レコーディングを行うときに外部デジタルS/PDIFを使用するなど、外部出力として利用することができます。さらに出力は両方とも同時に使用できます。

注: S/PDIFを使用すると、CDJを接続する時、または別のミキサーへ接続する時に、より良いサウンドとより良いパフォーマンスが得られます。

RCAまたはS/PDIFのセッション入力に接続されたデバイスからのオーディオを再生するには、USB Auxトグル・スイッチをSESSION IN (下の位置) に設定します。USBオーディオ・チャンネル9/10からオーディオを再生するには、USB AuxスイッチをUSB Aux (上の位置) に設定します。USB Aux再生を使用するには、DJまたはDAWのソフトウェア設定パネルでUSBチャンネル9/10を割り当てる必要があります。

セッション・インプットのサブミックスへの割り当て (SUBボタンを押す) は、独立した3バンドEQ、フィルター、ミックスレベル、キューを備えたフル機能の5チャンネル・ミキサーとして使用できることを意味します。

セッション入力、チャンネル1、2、3、4、サブミックス、およびメイン出力をUSBオーディオ・チャンネルで同時に録音できます。マルチトラック録音では、録音後のファイルを「修正」することができます。詳しくは12ページの「USBオーディオ」を参照してください。

セッションアウト・コントロールは、セッションアウトRCA端子、S/PDIF端子、USBレコード・チャンネル13~14のオーディオ出力レベルに影響を与えます。

リアル・ワールドセッション / Oアプリケーション

TraktorとMaschineユーザーの場合、通常、Traktor内の4つのトラック・デッキやリミックス・デッキ、Maschineのヒット、ループ、サンプルを組み合わせて使用することができます。

4つのトラック/リミックス・デッキをMP2015の4つのチャンネルにルーティングし、Maschineのメイン出力をUSB Auxチャンネル9/10経由でセッション入力にルーティングします。Traktorの環境設定でオーディオ・ルーティングを設定します。

セッション入力ゲインを使用して、Maschineからのオーディオ音量を制御します。Session In SUBボタンを押すと、Maschineからサブミックスにオーディオを送ることができます。ミックスレベル、EQ、およびフィルタリングをフルに活用できます。また、Maschineの個別のオーディオをDeckチャンネルからSubmixに送り、マルチソースのミキシングや外部エフェクトの追加を容易に行うことができます。

サブミックス

サブミックスは、オーディオの一部または全てをメインミックスと同じように送信できるチャンネルです。サブミックスは、4つのデッキ・インプットとセッション入力を任意に組み合わせて使用できます。デッキまたはセッション入力のSUBボタンを押してサブミックスに割り当て、ボタンを青色に点灯させます。これにより、任意の数の入力をグループ化して、簡単で直感的なマルチソース・ミキシングが可能になります。このコンセプトは、典型的なオーディオ・ミキシングコンソールのサブミックスまたはバストラックと同じです。この機能は、多数のトラックを1つのチャンネルにまとめてグループ化して、制御と処理を容易にするために重宝します。

- サブミックスに割り当てられたチャンネルは、共通のコントロールを共有します：
 - メイン・ミックスレベル。
 - 3バンド・フルカット・トーンコントロール。Low / Mid、Mid / Highのクロスオーバーポイントを変更することができます。14ページの「コントロールパネル」を参照してください。
 - ピークホールドを備えた16セグメントQピークメーター。
 - ヘッドフォンキュー。
 - 選択可能なハイパス/ローハイパス/ローパス・スイープフィルター。
注: レゾナンス・コントロールは、デッキ1、2、3、4およびサブミックスのすべてのスイープフィルターに影響します。
- 割り当て可能な外部エフェクト・ループ：
 - FX send・レベルは、リアパネルで-10 (低電圧デバイスの場合) または+4 (高電圧デバイスの場合) に切り替えることができます。
 - FX ONボタンは、FX RETURN端子からの入力を受けて、点灯するとエフェクト・ループをアクティブにします。
 - Wet / Dryは、FXとミックスの割合をコントロールします。
 - このループは、メインミックスまたはサブミックスを切り替えて処理することができます。
- サブミックスのUSBレコード出力は、チャンネル11~12です。

DJミキサーにサブミックスを追加した理由とは？

DJ技術の大きな飛躍のひとつにオートシンクが挙げられます。CDJ、Traktor、Virtual DJ、Ableton、またはほとんどのDJソフトウェアを使用すると、シンク機能は創造的なマルチソース・ミキシングの扉を開きます。新技術は新しい可能性をもたらし、どのようにミックスするか新たなアイデアがきつと湧くことでしょう。サブミックスでは、複数のソースをミキシングする場合に、個別のチャンネルに対してゲイン、EQ、およびフィルターコントロールを行う必要がなくなります。サブミックス内でトラックをグループ化することで、複数のチャンネルのミックスレベル、EQ、フィルター設定を一括してコントロールすることができます。

2つの音源をミキシングする場合は、ひとつまたは両方のチャンネルに外部エフェクトを追加しない限り、おそらくサブミックスは使用しません。Submixは、複数のソースを一度に直感的にミックスする必要のあるDJにとって重宝する機能です。

サブミックスの使用例

ソフトウェアから送信される、3つのオーディオソースを例にとって見てみましょう。

- メイントラックはチャンネル1、ドラムループはチャンネル2、ループサンプルはチャンネル3に入力されています。
- メイントラックにブレイクダウンがあり、ブレイクダウンに入りトラックのゲインが下がる時に、チャンネル2と3のロー/ミッドレンジをカットしたいとします。
- サブミックスにチャンネルを割り当てる前に、再生中の音源にエフェクトが加わっていない状態であることを確認してください。Submix Mixコントロールを全開にし、トーン・コントロールを12時に設定、Submixチャンネル内のFilterをオフにします。これにより、Submixに送信されるオーディオは、最初はSubmixルーティングの影響を受けません。
- チャンネル2と3の両方のソースセレクターの隣にあるSUBボタンを押します。これにより、両方のチャンネルのオーディオがサブミックスに送られます。
- これで、チャンネル2と3の両方のトラックがSubmixコントロール・ストリップを使用してコントロールできるようになりました。
- チャンネル1のトラックでブレイクダウンに近づくにつれて：
 - Submixチャンネル内のFilterをオンにします。
 - Filterコントロールでローおよびミッド範囲の周波数をフィルタリングします。
 - サブミックスのMIXノブを使用して両方のトラックのレベルを下げます。

ミックスが成功しました！

サブミックスがなければ、2つのフィルターをオンにした状態で2つのフィルターコントロールを調整し、さらに2つのミックス・コントロールをオフにして同じミックスを実行する必要があります。ミックスにさらなるトラックを追加すると、このプロセスはより難しくなります。制御されていないサウンドは、ダンスフロアのお客様にとって、決して心地良いものではありません。

サブミックスと外部FXループ

サブミックスには外部エフェクト・インサートがあり、割り当てられたチャンネルにエフェクトを追加することができます。外部FXコントロールは、Submixチャンネル・ストリップの上部にあります：

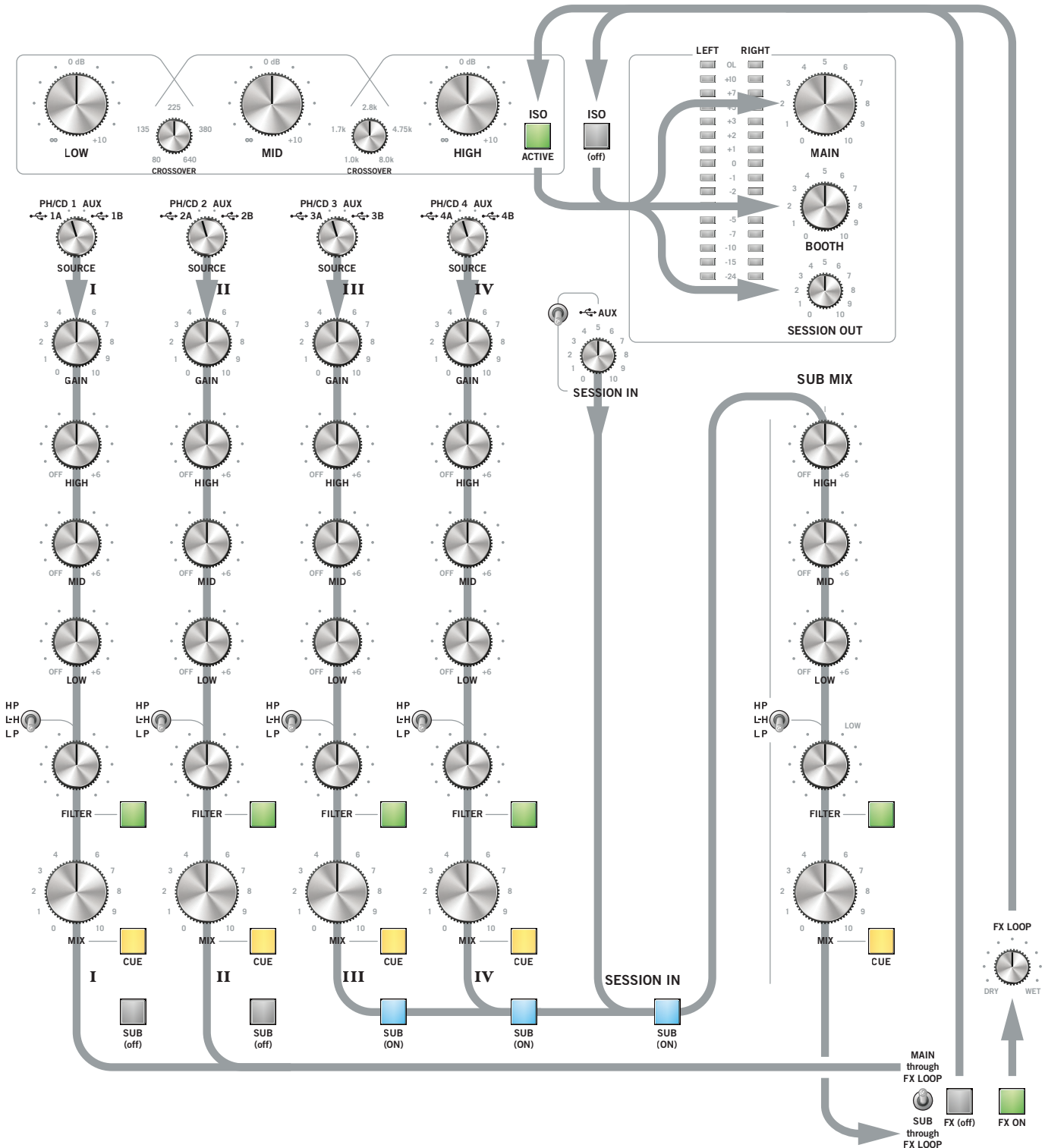
1. FX ONボタン：アウトボード・エフェクト・プロセッサから送信されるオーディオを戻します。
 2. MAIN / SUBスイッチ：エフェクトをサブミックスまたはメインミックスのどちらに対して加えるかを選択できます。
 3. WET / DRY：エフェクトの量をコントロールします。
RCAセンドとリターン端子と、レベル・スイッチがリアパネルにあります。それらは以下のように動作します：
 1. MP2015 SENDを外部エフェクターの入力端子に接続します。
 2. エフェクト・プロセッサの出力をMP2015 RETURNに接続します。
 - a. Korg Kaoss Padなどのコンシューマーグレードのエフェクト・プロセッサを使用する場合は、-10スイッチを押して使用します。これは、外部エフェクト・プロセッサのI/OレベルをMP2015に合わせます。
 3. エフェクト・インサートの挿入位置を設定するために、SUBまたはMAINのミックスを選択します。
 - すべてにエフェクトを適用する場合は、MAINを選択します。
 - サブミックスで選択したインプットにのみエフェクトを適用する場合は、SUBを選択します。
- A)メインミックスの場合、エフェクト・アサインメントをMAINに設定し、FX ONボタンを押してFX Loopを鳴らし、希望のエフェクト量が聞こえるまでコントロールをWETに回します。
- B)サブミックスに割り当てられたチャンネルにエフェクトを適用するには、FX LoopアサインをSUBに設定します。サブミックスに目的のチャンネルを送信します。FXをONにして、必要に応じてWET / DRYを調整します。
- C)サブミックスに音声信号を送信する場合に、ミックスに変化が起きないようにするには、サブミックスのMIXノブを全開にし、トーン・コントロールが12時の位置で無効になっていることを確認して、FILTERスイッチをオフにします。



サブミックス信号の流れ

信号は、ソースセレクターからスタートして、Gain、Tone、Filter、Mixコントロールを通過します。以下の図では、SUBボタン、セッションイン/ FXコントロールの位置を変更したときの信号の流れを解りやすく解説しています。

- SUBがオフの場合（デッキ1と2を参照）、FX Loop（オンの場合）、ISO EQ（オンの場合）、Main 出力に進みます。
- SUBがオンの場合（デッキ3、4、およびセッションインを参照）、信号は一本化され、トーン、フィルター、ミックス・コントロールを装備した別セットを通過します。ここから、SubmixはFX Loop（オンになっている場合）、ISO EQ（オンの場合）、Main 出力の順に進めます。



マイク入力

マイク入力には、次のコントロールが装備されています：

- オン/オフ・スイッチは、マイクをオンまたはオフにします。
- ダックは、他の入力を一時的に10 dB (約1/3) 抑制します。
- ゲイン・コントロールは、マイク・レベルを設定します。
- ひとつのノブによるトーン・コントロール：
 - 高域を上げると、同じ量だけ低域が減少します。
 - 高域を下げると、同じ量だけ低域が増加します。
- リアパネルのスイッチには、マイクタイプごとに3つのポジションがあります。
 - ラインレベルは、ワイヤレス・マイクレシーバーからの出力を入力できます。
 - マイクレベルは、ダイナミック・マイクに適しています。
 - 48Vファンタム電源は、コンデンサーマイク用です。
- コントロールパネル・オプション：クリーンフィードを選択すると、マイク信号はメイン出力に直接送信され、USBメインレコード、ブースアウト、またはセッションアウトには出力されません。14ページの「コントロールパネル」を参照してください。



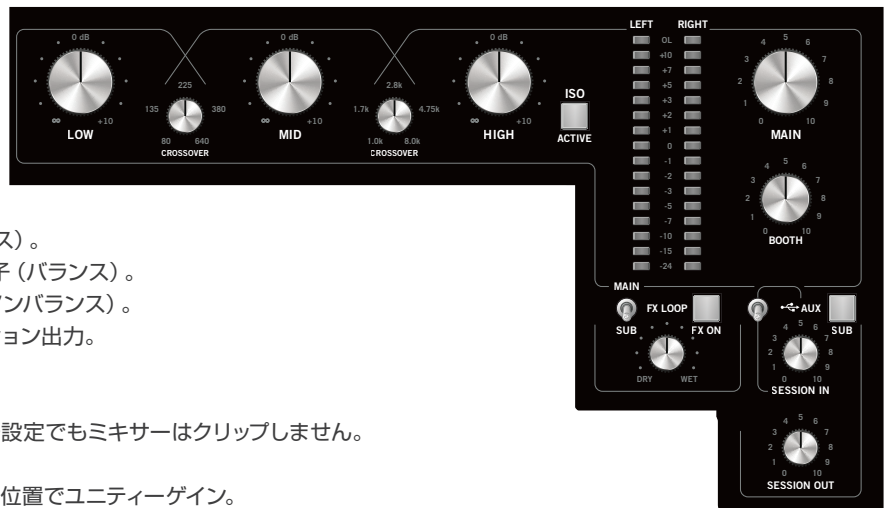
ヘッドフォン・キューイング

- ヘッドフォン・モニターは、ステレオまたはモノ・スプリットキュー操作を行うことができます。
 - ステレオ操作に設定する (オフ) と、パン・コントロールはステレオキューとステレオ・メインミックス間を移動します。
 - スプリットキュー操作に設定する (オン) と、パン・コントロールは左耳側のモノキューと右耳側のモノラル・メインミックス間を移動します。
- デッキ1、デッキ2、デッキ3、デッキ4、サブミックスごとに個別のキューボタンが用意されています。
- キューボタンは、各チャンネルのヘッドフォン・モニタリングを行います。Cueを押すたびに、複数のチャンネルを同時にキューすることができます。
- Phonesコントロールは、ヘッドフォン出力のレベルを設定します。
- ヘッドフォン出力は、フロントにひとつ、上面にひとつの計2つの1/4インチ端子を利用できます。
- 3.5 mm端子はフロントに装備されています。すべての端子で、同じ信号を共有します。
- コントロールパネルは、ヘッドフォンの低音と高音の調整を可能にします。14ページの「コントロールパネル」を参照してください。
注：メイン出力アイソレーターの効果は、ヘッドフォンでは聞こえません。

メイン・ミックス出力

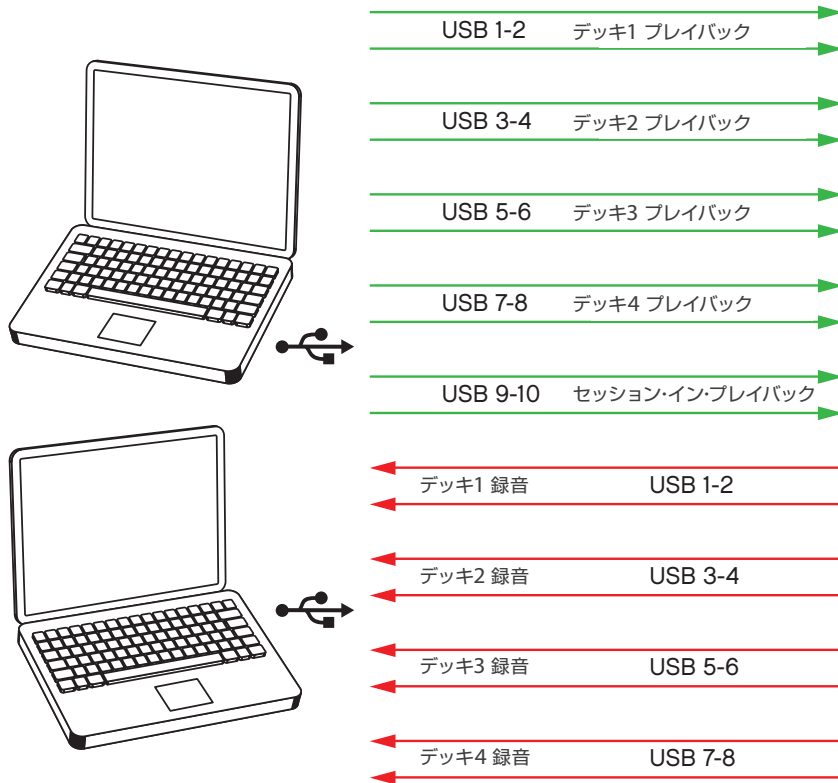
これらの信号を組み合わせてメインミックス信号を作ります：

- デッキ1、2、3、および4。
 - セッション。
 - サブミックス/ FXリターン。
 - マイク
- メインミックス出力は、次のとおりです。
- Main：8 Vrmsの最大出力を持つXLR端子 (バランス)。
 - ブース：8 Vrmsの最大出力を持つ1/4インチTRS端子 (バランス)。
 - セッション：4 Vrmsの最大出力を持つRCA端子 (アンバランス)。
 - 単一のRCA端子を用いたS/PDIFデジタル・セッション出力。
- すべてのメインミックス出力に共通：
- ピークホールド付きステレオQピークメーター：
 - 赤色のLEDが点灯していない場合、どの出力レベル設定でもミキサーはクリップしません。
 - メイン出力アイソレーター：
 - オフから+ 10dBまでの範囲で調整可能で、12時の位置でユニティーゲイン。
 - ロー・ミッドのクロスオーバーは、80 Hz~640 Hzの範囲で調整できます。
 - ミッド・ハイのクロスオーバーは、1 kHz~8 kHzの範囲で調節できます。
- メイン、ブース、およびセッション出力には独立したレベル・コントロールを装備。調整可能な範囲は、オフから0dBです。
- コントロールパネル・オプション：メイン出力をモノラルまたはステレオに設定できます。他の出力はステレオのままです。
- 14ページの「コントロールパネル」を参照して下さい。

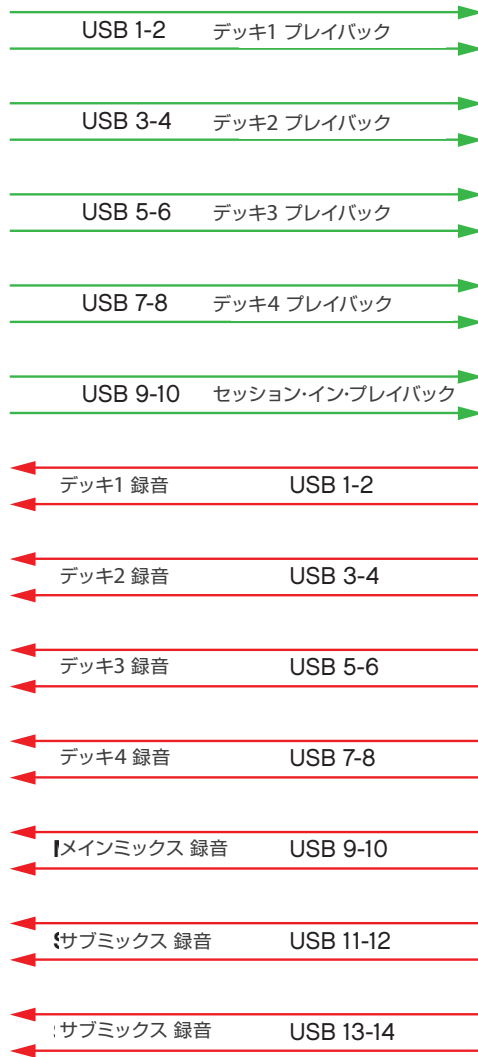


USBオーディオ

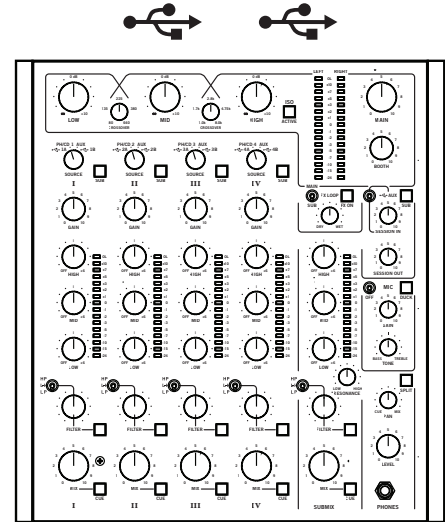
7つのステレオ録音チャンネルと5つのステレオ再生チャンネルがあります。これらのチャンネルは2つのUSBポートで利用でき、2台のコンピュータでデバイスを共有できます。これにより、2人のDJが一緒に演奏することが可能で、DJプレイを止めることなく交代することができます。USBオーディオは、サンプルレート44.1、48、96 kHzの24ビットPCMです。サンプルレートとUSBスロットの割り当ては、DJまたはデジタルオーディオ・ワークステーション・ソフトウェアの設定画面で行います。



USB 録音



USB プレイバック



USBポート ×2

USB再生チャンネル割り当て

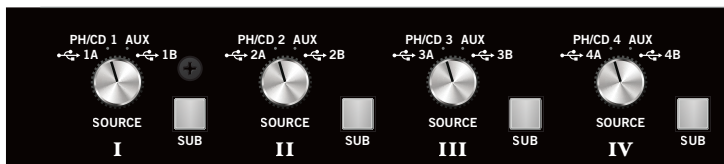
デッキ1再生	デッキ2再生	デッキ3再生	デッキ4再生	セッションイン	USB再生
USBオーディオ再生スロット1-2	USBオーディオ再生スロット3-4	USBオーディオ再生スロット5-6	USBオーディオ再生スロット7-8	USBオーディオ再生スロット9-10	
デッキ入カソースの選択に応じて、USB AまたはUSB Bのいずれかからルーティングされます。					USB AとUSB Bの合計

USBレコード・チャンネル割り当て (常にUSB AとUSB Bの両方にブロードキャスト)

デッキ1レコード	デッキ2レコード	デッキ3レコード	デッキ4レコード	メインミックスレコード	サブミックスレコード	セッションインレコード
USBオーディオレコードスロット 1-2	USBオーディオレコードスロット 3-4	USBオーディオレコードスロット 5-6	USBオーディオレコードスロット 7-8	USBオーディオレコードスロット 9-10	USBオーディオレコードスロット 11-12	USBオーディオレコードスロット 13-14
DVS使用時は "Phono / CDJ"を選択します。マルチトラック録音の場合は「Post」を選択します (デフォルト)。14ページの「コントロールパネル」を参照してください。						

DJの交代

デジタルDJの最大の課題の1つは、プレイ中のDJから次のDJにシームレスに交代することでした。MP2015ミキサーのデュアルUSBアーキテクチャにより、デジタルDJ間の切り替えがこれまでになく簡単になりました。



デッキの切り替えコントロール

各入力チャンネルの上部には、Source SelectノブをUSB Aに切り替えるためのSource Selector USBポートAがあり、ミキサーは対応するバーチャル・デッキをそのチャンネルに割り当ててオーディオを再生します。例えば、4つのチャンネルすべてをUSB 1A-4Aに割り当てると、USBポートAに接続されたコンピュータに4つのバーチャル・デッキがすべて割り当てられます。

USBポートBにも同じことが言えます。コンピュータがUSBポートBに接続されている場合、ソース選択ノブをUSB Bに切り替え、対応するバーチャルデッキをそのチャンネルに割り当ててオーディオを再生します。

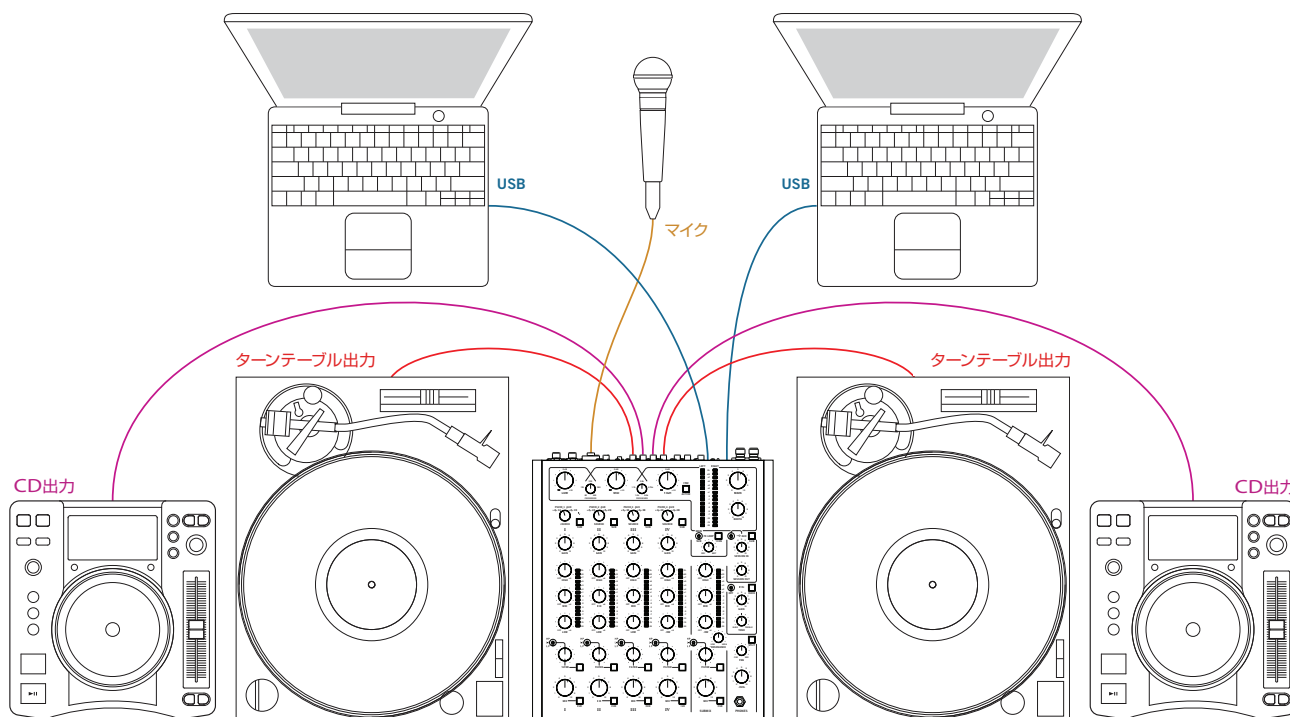
2台のコンピュータがMP2015に接続されている場合、Source Selectノブを使用してコンピュータ間でデッキ・コントロールをすばやく切り替えることができます。4つのインプットのいずれかを、簡単なノブの切り替えだけで入れ替えることが可能です。すばらしく簡単な機能は、まさに私たちが求めていたものです。

DJの交代の流れ

以下のシナリオでは、一人のDJを仮にDJ Aと呼びます。DJ Aのコンピュータが既にMP2015に接続され、DJプレイ中の場合、次の操作を行います。

1. コンピュータをMP2015の未使用のUSBポートに接続します。
2. 再生していない入力チャンネルの入カソースをご自身のコンピュータのUSBソースに切り替えます。
3. このデッキでトラックを演奏し、準備ができたならミックスします。両方のコンピュータのオーディオがミックスされています。
4. DJ Aのコンピュータから再生しているオーディオをフェードアウトし、あなたのコンピュータから再生しているオーディオに切り替えます。
5. 残りの空いているミキサーチャンネルの入カソースを、あなたのコンピュータに割り当ててDJを続けます。

DJ Aが完了したら、コンピュータをUSBポートから外します。DJ Aとバックトゥバックのミキシング（相互ミックス）をしている場合は、どちらのコンピュータも接続したままにして、DJプレイを続けてください。



クラスコンプライアントUSBポート

USBポートは100%クラスコンプライアントであり、追加のドライバを必要とせずにMac OS Xに接続できます。高性能ASIOドライバは、ほとんどのWindows DAWおよびDJソフトウェアで使用されています。MIDIエンドポイントは、OS XとWindowsデバイスの両方に共通するクラスコンプライアントです。追加のミキサー設定が可能なMacとWindowsのコントロールパネル・インストーラは、dj.rane.comのMP2015ページのダウンロードリンクから入手できます。

ASIO (Windows)

低レイテンシーのASIOドライバは、Windows OSで起動する多くのDJおよびDAWオーディオ・ソフトウェア・アプリケーションのインターフェースです。マルチ・クライアントASIOにより、さまざまなオーディオ・ソフトウェア・アプリケーションが、MP2015との間でオーディオを同時に処理できます。もしも複数のアプリケーションで同じ再生チャンネルが選択されている場合は、ドライバはアプリケーションのオーディオをミキシングしてから、デバイスにデータを送ります。ASIOドライバとRane Control Panelシステムには、Windows 7-SP1、Windows 8または8.1が必要です。ドライバ・コントロールパネルは、Windowsのコントロールパネルから起動できます。スタート > コントロールパネル > Rane MP2015を選択します。

Core Audio (Macintosh)

ドライバのインストールは必要ありません。OS Xを搭載したMacにMP2015を接続すると、オーディオ・プログラムでMP2015の入力と出力が使用できるようになります。Raneコントロールパネルをインストールして、以下に説明する追加設定を行います。

コントロールパネル

注：設定はミキサーに保存されます。WindowsまたはMac OS Xのコントロールパネルは、ミキサーの設定で更新されます。従って、別のMP2015ミキサーに接続する

と、以前のコントロールパネルの設定ではなく、ミキサーに保存された設定が優先されます。

注：Raneコントロールパネルとファームウェアは、時間の経過とともに新しい機能が更新される場合があります。MP2015を最大限活用するには、MP2015ページ

(dj.rane.com) の「ダウンロード」リンクを定期的にチェックしてください。

設定

MP2015では、設定を保存して書き出すことができます。他のMP2015を使用したり、別のDJがミキサーを使用した後に、以前の設定に戻す場合に、好みの設定を読み込むことができます。コントロールパネルの環境設定が完了したら、[エクスポート]をクリックして、これらをコンピュータファイルに書き込みます。.rms設定ファイルを読み込むには、[インポート]をクリックします。コントロールパネルには、ミキサーにロードされている現在の設定ファイルが表示されます。最後のインポート以降に変更が加えられた場合は、[Modified] がファイル名の後に[保存]ボタンとともに表示され、変更を新しいデフォルトとして保存します。

ファームウェア

MP2015に現在インストールされているMP2015ファームウェアのバージョンが表示されます。dj.rane.comのMP2015ページにあるダウンロード・リンクで、コントロールパネル/ファームウェアのアップデートがあるかどうかを確認できます。ダウンロードしてインストールした後、コンピュータにインストールされているMP2015ファームウェアがMP2015のファームウェアより新しい場合は、[ファームウェアの更新]ボタンが有効になります。ボタンを押すと、MP2015のファームウェアが新しいバージョンに更新されます。

General タブ

Main OutはStereoまたはMonoに設定できます。ブースとセッション出力は常にステレオです。

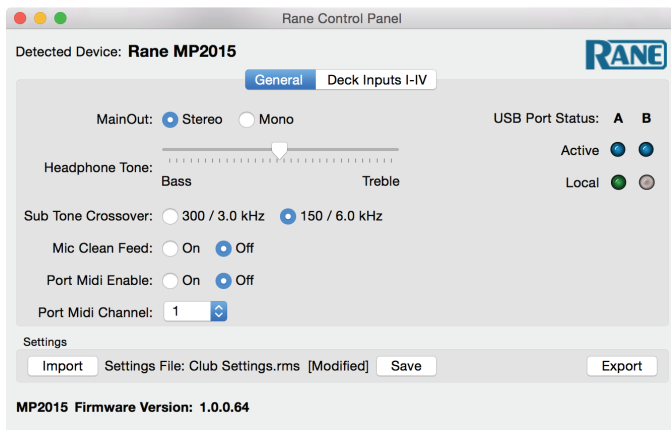
ヘッドフォン・トーンスライダは、スペクトル・チルト・フィルタを使用してヘッドフォンに対するトーンを調整します。

- ・ 高域を上げると、同じ量だけ低域が減退します。
- ・ 低域を上げると、同じ量だけ高域が減退します。

Sub Tone Crossoverは、クロスオーバーポイントを設定します。Submixの3バンド・トーンコントロールを次のいずれかに設定します。

- ・ ローとミッド間の300 Hz、ミッドとハイ間の3 kHz。
- ・ ローとミッド間の150 Hz、ミッドとハイ間の6 kHz (デフォルト)。

Mic Clean Feedを選択すると、マイク信号はMain Outにのみ送信され、USB Main Record、Booth Out、またはSession Outには含まれません。これにより、ボーカルなどを含むことなく、あなたのDJプレイだけを録音することができます。デフォルトはオフになっています。



Port MIDI Enable

現在のUSBポートでMP2015ミキサーコントロールとの間で、MIDIコマンドを送受信できるようにします。デフォルトはオフになっています。

ポートMIDIチャンネル

現在のUSBポートでMIDIチャンネル1~16をMP2015ミキサーに割り当てます。デフォルトはMIDIチャンネル1になっています。

USB Port Status

両方のUSBポートの接続状態を示します。アクティブは、ミキサーとコンピュータのUSB接続を示します。ローカルには、このコントロールパネルのコンピュータに接続されているUSBポートが表示されます

Buffer Size

Buffer Sizeコントロールを使用すると、USBバッファを増減できます。これは、WindowsのASIOのRane Control Panelにのみ表示されます。Macシステムでは、バッファコントロールはDAWまたはDJオーディオ設定画面にあり、ここには表示されません。Raneドライバは、往復で5msほどのレイテンシーで動作するように設計されています。ただし、コンピュータのパフォーマンスと利用可能なリソース（実行されているアプリケーションの数）は、オーディオを確実にストリーミングするコンピュータの能力に悪影響を与える可能性があります。USBオーディオでポップ音やクリック音が聞こえる場合は、バッファサイズを上げてみてください。ASIOを使用すると、往復レイテンシーは、バッファサイズ+デバイス・レイテンシーに等しくなります。Core Audioの場合、往復レイテンシーは、DAW / DJソフトウェアによって設定されたBuffer Sizeとデバイス・レイテンシーによって決まります。デバイスの待ち時間は3~4msです。

Deck Inputs I-IVタブ

ミキサーの各入力チャンネルには、1つのパネルがあります。

各デッキパネルは、次の機能を制御します。

アナログ入力ソース

各デッキのアナログ入力は、ミキサーの背面にあるスイッチを使用して、CD、Phono、またはS/PDIFを適切に設定する必要があります。コントロールパネルの4つの入力チャンネルに、スイッチで選択されたモードが表示されます。このモードはミキサーでのみ変更できます。

フォノ感度

フォノ入力がオンの場合、デッキ・インプットパネルに感度調整が表示（デッキIとIVに示されているように）されます。下向きの矢印をクリックすると、0.5 mVステップで2.5 mVと10 mV間の16個の感度設定リストが表示されます。デフォルトは5 mVです。Phono

Sensitivityを、お使いのカートリッジと同じレベルに設定します（正しい値については、カートリッジのマニュアルを参照してください）。別の方法として、ターンテーブルからの入力レベルを、別のチャンネルで再生しているCDに合わせることもできます。

USB Record Source

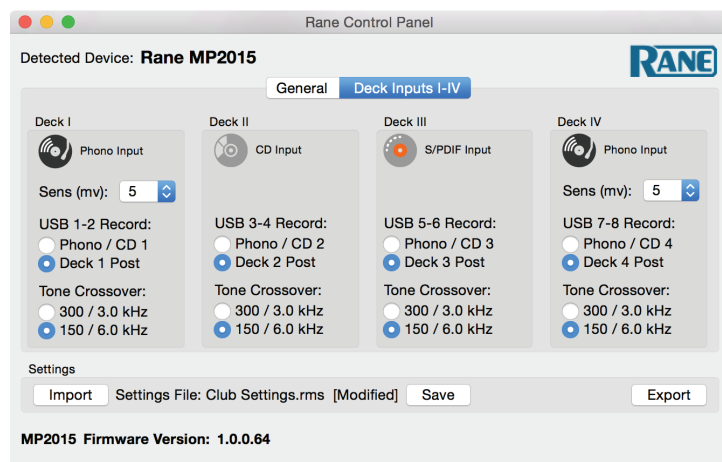
これらのコントロールは、USBレコードソースとして、各入力チャンネルの2つのソースのうちひとつを選択します。

- Phono / CDは、DVSアプリケーションで使用されるソースのプリミックス・コントロールを録音します。
- Deck (1-4) Postは、マルチトラック録音に使用されるMixコントロール後の各デッキの音声を録音します。各デッキは、別々のUSBスロットに記録します。この設定がデフォルトです。詳しくは12ページの「USBオーディオ」を参照してください。

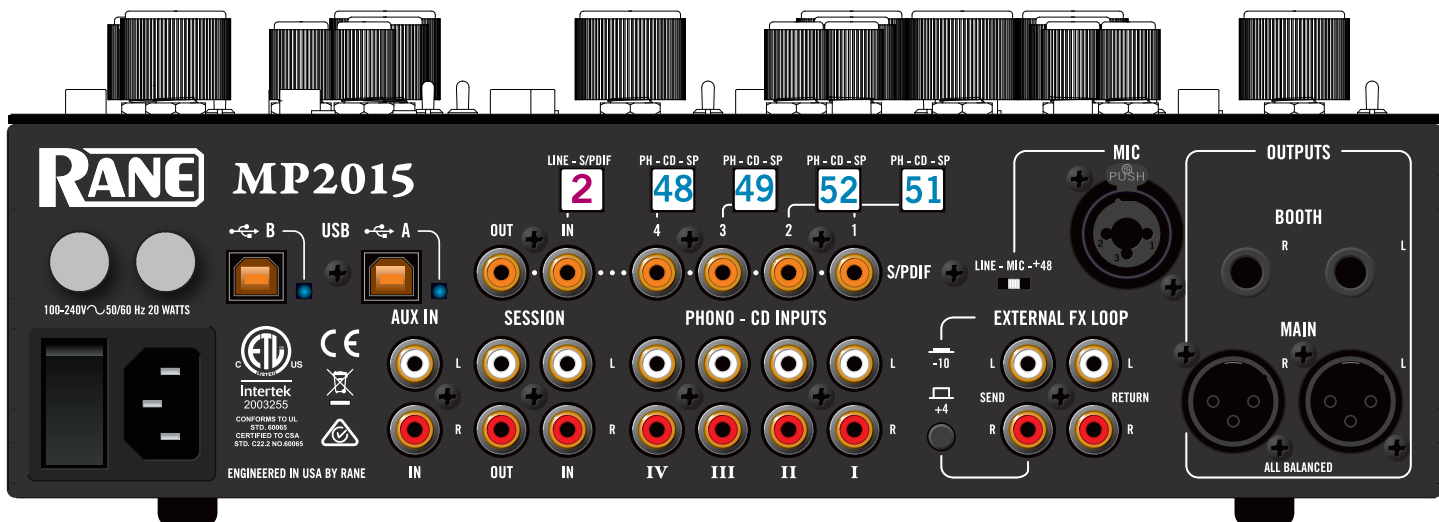
Tone Crossover

各デッキ・チャンネルの3バンド・トーンコントロールのクロスオーバーポイントを次のいずれかに設定します。

- ローとミッド間の300 Hz、ミッドとハイ間の3 kHz。
- ローとミッド間の150 Hz、ミッドとハイ間の6 kHz（デフォルト）。

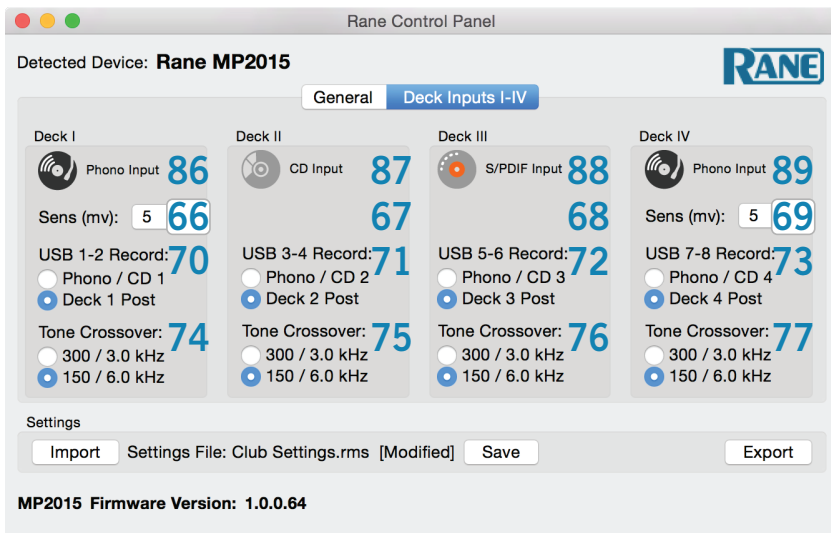
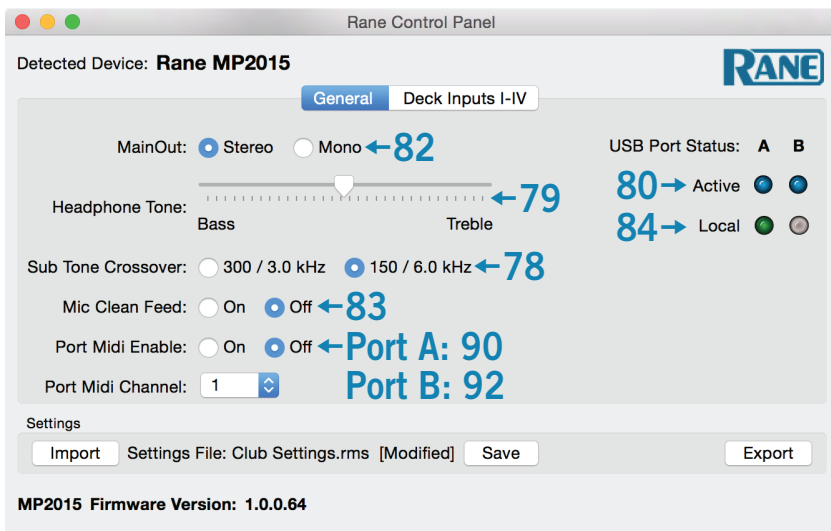


リアパネル MIDIコントローラー



コントロールパネルMIDIコントローラー

ミキサーメニューのコントロールチェンジ・ナンバーは、ドライバコントロールパネルの対応するコントロールと共有されます。



MIDIインプリメンテーション

トップパネルMIDIコントロールチェンジ・チャート

Control # Dec	Control # Hex	関数	値
1	1	デッキ1入力ゲイン・トリム	0~127 (0x00~0x7F)
2	2	アインレータEQローブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
3	3	デッキ1ハイブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
4	4	デッキ1ミックス・レベル	0~127 (0x00~0x7F)
5	5	デッキ1ミッド・ブースト/ Cut	0~127 (0x00~0x7F)
6	6	デッキ1 LP / HPフィルター	0~127 (0x00~0x7F)
7	7	デッキ1ローブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
8	8	デッキ2入力ゲイン・トリム	0~127 (0x00~0x7F)
9	9	アインレーター低/中クロスオーバー	0~127 (0x00~0x7F)
10	0A	アインレーターミッド・ブースト/ Cut	0~127 (0x00~0x7F)
11	0B	デッキ2ハイブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
12	0C	デッキ2ミックス・レベル	0~127 (0x00~0x7F)
13	0D	デッキ2ミッド・ブースト / Cut	0~127 (0x00~0x7F)
14	0E	デッキ2 LP / HPフィルター	0~127 (0x00~0x7F)
15	0F	デッキ2ローブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
16	10	デッキ3入力ゲイン・トリム	0~127 (0x00~0x7F)
17	11	アインレータミッド/ハイクロスオーバー	0~127 (0x00~0x7F)
18	12	デッキ3ハイ・ブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
19	13	デッキ3ミックス・レベル	0~127 (0x00~0x7F)
20	14	デッキ3ミッド・ブースト/ Cut	0~127 (0x00~0x7F)
21	15	デッキ3 LP / HPフィルター	0~127 (0x00~0x7F)
22	16	デッキ3ローブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
23	17	デッキ4入力ゲイン・トリム	0~127 (0x00~0x7F)
24	18	アインレーターハイブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
25	19	デッキ4ハイブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
26	1A	デッキ4ミックス・レベル	0~127 (0x00~0x7F)
27	1B	デッキ4ミッド・ブースト/ Cut	0~127 (0x00~0x7F)
28	1C	デッキ4 LP / HPフィルター	0~127 (0x00~0x7F)
29	1D	デッキ4ローブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
30	1E	FXループ・ウェット/ドライ・パン	0~127 (0x00~0x7F)
31	1F	LP / HPフィルターレゾナンス	0~127 (0x00~0x7F)
32	20	サブミックス・ハイブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
33	21	サブミックス・レベル	0~127 (0x00~0x7F)
34	22	サブミックス・ミッドブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
35	23	サブミックスLP / HPフィルター	0~127 (0x00~0x7F)
36	24	サブミックス・ローブースト/カット	0~127 (0x00~0x7F)
37	25	レベルのセッション	0~127 (0x00~0x7F)
38	26	ブース出力レベル	0~127 (0x00~0x7F)
39	27	メイン出力レベル	0~127 (0x00~0x7F)
40	28	セッション出力レベル	0~127 (0x00~0x7F)
41	29	フォノ出力レベル	0~127 (0x00~0x7F)
42	2A	マイク入力ゲイン	0~127 (0x00~0x7F)
43	2B	フォノキュー/メイン・パン	0~127 (0x00~0x7F)
44	2C	マイク・トーンコントロール	0~127 (0x00~0x7F)
45	2D	デッキ4ソース	0~31 (USB A)、32-63 (PH/CD)、64-95 (AUX)、96~127 (USB B)
46	2E	サブミックスLP / HPフィルタータイプ選択	0~42 (HP)、43-85 (LP)、86-127 (LP/HP)

47	2F	デッキ4 LP / HPフィルタータイプ選択	0~42 (HP)、43-85 (LP)、86-127 (LP/HP)
48	30	デッキ4入力モード	0~42 (PH)、43-85 (SPDIF)、86-127 (CD)
49	31	デッキ3入力モード	0~42 (PH)、43-85 (SPDIF)、86-127 (CD)
50	32	デッキ3ソース	0~31 (USB A)、32-63 (PH/CD)、64-95 (AUX)、96~127 (USB B)
51	33	デッキ1入力モード	0~42 (PH)、43-85 (SPDIF)、86-127 (CD)
52	34	デッキ2入力モード	0~42 (PH)、43-85 (SPDIF)、86-127 (CD)
53	35	デッキ3 LP / HPフィルタータイプ選択	0~42 (HP)、43-85 (LP)、86-127 (LP/HP)
54	36	デッキ2ソース	0~31 (USB A)、32-63 (PH/CD)、64-95 (AUX)、96~127 (USB B)
55	37	デッキ2フィルタータイプ選択	0~42 (HP)、43-85 (LP)、86-127 (LP/HP)
56	38	デッキ1フィルタータイプ選択	0~42 (HP)、43-85 (LP)、86-127 (LP/HP)
57	39	デッキ1ソース	0~31 (USB A)、32-63 (PH/CD)、64-95 (AUX)、96~127 (USB B)

コントロールパネルのMIDIコントロール

Control # Dec	Control # Hex	コントロールの説明	データ	値
66	42	デッキ1フォノ感度	0~F	2.5 (00)、3 (01)、3.5 (02)、4 (03)、4.5 (04)、5 (05)、5.5 (06)、6 (07)、6.5 (08)、7 (09)、7.5 (0A)、8 (0B)、8.5 (0C)、9 (0D)、9.5 (0E)、10 (0F)
67	43	デッキ2フォノ感度	0~F	2.5 (00)、3 (01)、3.5 (02)、4 (03)、4.5 (04)、5 (05)、5.5 (06)、6 (07)、6.5 (08)、7 (09)、7.5 (0A)、8 (0B)、8.5 (0C)、9 (0D)、9.5 (0E)、10 (0F)
68	44	デッキ3フォノ感度	0~F	2.5 (00)、3 (01)、3.5 (02)、4 (03)、4.5 (04)、5 (05)、5.5 (06)、6 (07)、6.5 (08)、7 (09)、7.5 (0A)、8 (0B)、8.5 (0C)、9 (0D)、9.5 (0E)、10 (0F)
69	45	デッキ4フォノ感度	0~F	2.5 (00)、3 (01)、3.5 (02)、4 (03)、4.5 (04)、5 (05)、5.5 (06)、6 (07)、6.5 (08)、7 (09)、7.5 (0A)、8 (0B)、8.5 (0C)、9 (0D)、9.5 (0E)、10 (0F)
70	46	デッキ1 USBレコード・ソース	0~7F	Record PH/CD (0-3F)、Record Post (40~7F)
71	47	デッキ2 USBレコード・ソース	0~7F	Record PH/CD (0-3F)、Record Post (40~7F)
72	48	デッキ3 USBレコード・ソース	0~7F	Record PH/CD (0-3F)、Record Post (40~7F)
73	49	デッキ4 USBレコード・ソース	0~7F	Record PH/CD (0-3F)、Record Post (40~7F)
74	4A	デッキ1トーンクロスオーバー	0~7F	300/3.0k (0-3F)、150/6.0k (40~7F)
75	4B	デッキ2トーンクロスオーバー	0~7F	300/3.0k (0-3F)、150/6.0k (40~7F)
76	4C	デッキ3トーンクロスオーバー	0~7F	300/3.0k (0-3F)、150/6.0k (40~7F)
77	4D	デッキ4トーンクロスオーバー	0~7F	300/3.0k (0-3F)、150/6.0k (40~7F)
78	4E	サブミックス・トーンクロスオーバー	0~7F	300/3.0k (0-3F)、150/6.0k (40~7F)
79	4F	ヘッドホン・トーン	0~7F	
80	50	USBポートのアクティブ・ステータス	Binary	Port A Active (1)、Port B Active (2) [数値の組み合わせ]
82	52	ステレオ/モノラル	0~7F	Stereo (0-3F)、Mono (40~7F)、Checkbox
83	53	マイク・クリーンフィード	0~7F	Normal (0-3F)、Clean Feed (40~7F)、Checkbox
84	54	USBポート・ローカル・ステータス	0~7F	Port A Local (0-3F)、Port B Local (40~7F)
86	56	デッキ1入力モード	0~7F	00~2A (S/PDIF)、2B-55 (Phono)、56~7F (CD)
87	57	デッキ2入力モード	0~7F	00~2A (S/PDIF)、2B-55 (Phono)、56~7F (CD)
88	58	デッキ3入力モード	0~7F	00~2A (S/PDIF)、2B-55 (Phono)、56~7F (CD)
89	59	デッキ4入力モード	0~7F	00~2A (S/PDIF)、2B-55 (Phono)、56~7F (CD)
90	5A	ユーザーMIDIコントロール・ポートAを有効にする	0~7F	0x00 Port A User MIDI コントロール無効、0x01~0x7F 有効
92	5C	ユーザーMIDIコントロール・ポートBを有効にする	0~7F	0x00 Port B User MIDI コントロール無効、0x01~0x7F 有効

MIDIノートON / OFFチャート

Note # Dec	Note # Hex	説明	スイッチタイプ	値
1	01	アイソレーターのオン/オフ	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
2	02	セッション入力モード	スライダ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
3	03	デッキ4サブミックスアサイン	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
4	04	マイアック	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
5	05	FXアサイン	トグル・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
6	06	セッションソース (USB /アナログAux)	トグル・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
7	07	FXループのオン/オフ	トグル・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
8	08	セッション入力サブミックス割り当て	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
9	09	キュースプリットオン/オフ	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
10	0A	マイクのオン/オフ	トグル・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
11	0B	デッキ4キューアサイン	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
12	0C	デッキ4フィルターのオン/オフ	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
13	0D	サブミックス・キューアサイン	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
14	0E	サブミックス・フィルターのオン/オフ	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
15	0F	デッキ3サブミックス・アサイン	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
16	10	デッキ3フィルターオン	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
17	11	デッキ3キューアサイン	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
18	12	デッキ2サブミックス・アサイン	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
19	13	デッキ1キューアサイン	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
20	14	デッキ2キューアサイン	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
21	15	デッキ2フィルターのオン/オフ	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
22	16	デッキ1サブミックス・アサイン	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On
23	17	デッキ1フィルターのオン/オフ	モーメンタリ・スイッチ	On Velocity: 0~42 = LED off, 43-127 LED On

技術仕様

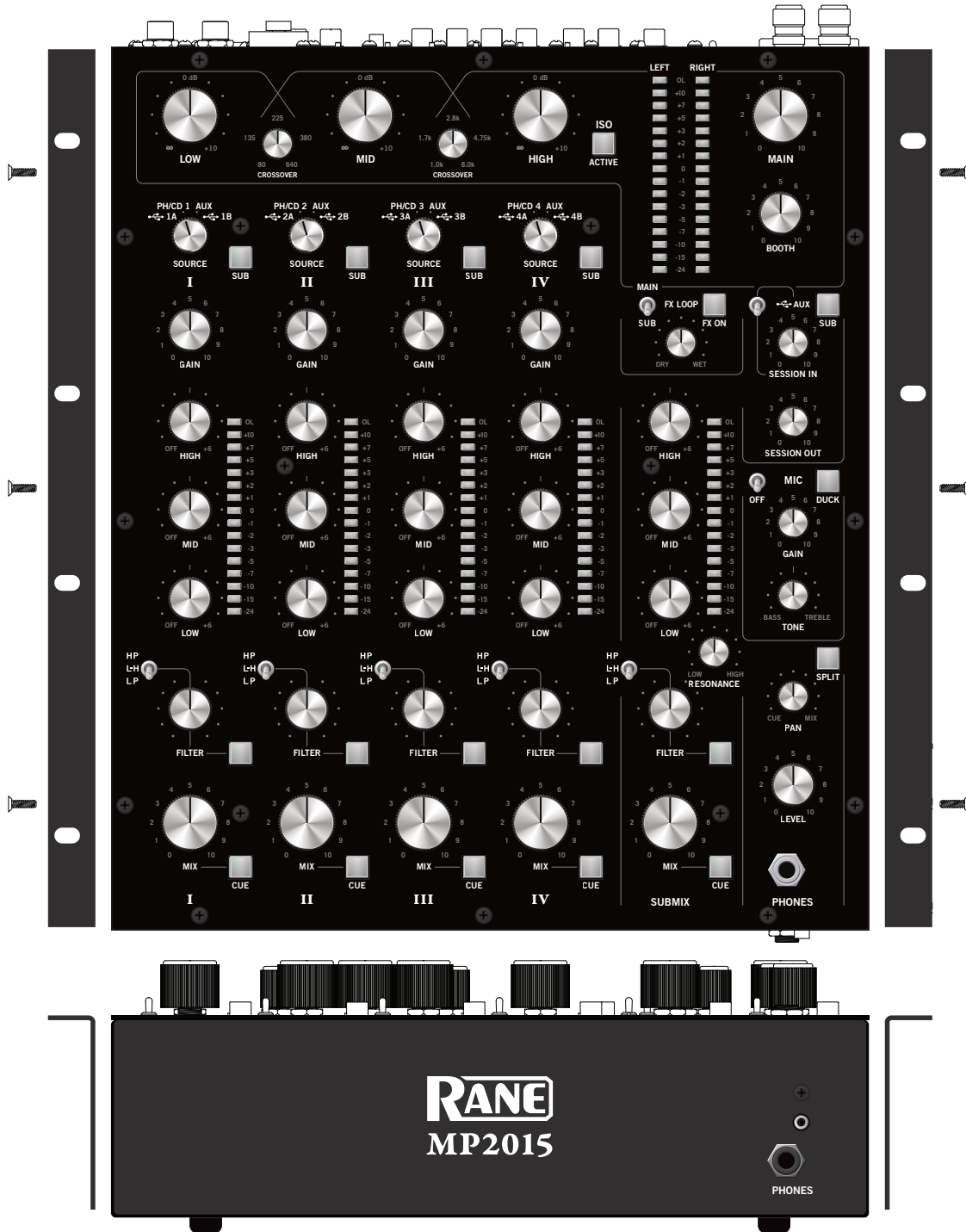
特に記載のない限り、すべての仕様は標準的です。

4つのアナログ・デッキ入力	それぞれPhono-CD-S/PDIFの切り替えが可能
....アナログ・ステレオRCAジャック	Phono (RIAA) またはCD (ライン・レベル)
.....フォノ・レスポンス	RIAA + 0.1 / -0.2dB、ゲイン: 1kHzで31dB
...パターワース3段目に超低周波フィルター (ランブル) および2段目にローパスフィルター	
.....最大フォノ入力	126mV
.....最大ライン入力	4 Vrms、すべてのアンバランス入力
....デジタルS/PDIF RCA端子	入力16ビットまたは24ビットPCMのみ
.....超低ジッタと16:1 SRC コンバージョン・レンジを備えた128 dBのダイナミックレンジ	
アナログAux入力: ライン・レベル	ステレオ・アンバランスRCA端子
セッション・アナログ入力: ライン・レベル	ステレオ・アンバランスRCA端子
セッションS/PDIF入出力	RCAジャック (ダイナミックレンジ128 dB)
....入力16ビットまたは24ビットPCMのみ	サンプルレート16 kHz~144 kHz
アナログ/デジタル・コンバータ	24ビット@44.1
デジタル/アナログ・コンバータ	24ビット@44.1
デジタル信号処理	32ビット浮動小数点
...ダイナミックレンジ	
.....ライン出力へのデジタル/ USB入力	116 dB Aウエイト
.....デジタル/ USB出力へのライン入力	116 dB Aウエイト
.....ライン入力からライン出力	113 dB Aウエイト
... THDとノイズ	0.0009%
USB 2.0オーディオ (2つの独立したポート)	7ステレオ録音、5ステレオ再生
.... PCM	24ビット@44.1
...クラスコンプライアント	Mac OS Xに必要なドライバはありません
.... Windows 7-SP1、Windows 8および8.1用のユニバーサルASIOドライバ	
FlexFX SEND/リターン	ステレオ・アンバランスRCA端子
マイク入力	バランス型1/4インチTRS&XLRコンボ・ジャック
.... + 48Vファンタム電源スイッチ	コンデンサーマイク用
....マイク/ライン・レベルスイッチ	ワイヤレス受信機への切り替え
ライン出力	メイン、ブース、セッション、FlexFXループ送信
....周波数特性	20Hz~20kHz±0.25dB
....アンバランス端子 (セッション&FlexFX)	最大4Vrms
....バランス端子 (メイン&ブース)	最大8Vrms
ユニバーサル電源: 100~240 VAC	最大20W、50Hz~60Hz
.....過渡電圧およびEMI保護、ミュートイングおよび過負荷保護	
単位: 適合	CE、FCC、cCSAus
サイズ: 35.5 cm x 33.3 cm x 8.3 cm	14 "H x 13.1" W x 4.3 "D (ノブを含む)
....重量: 5.8キログラム	12.7ポンド
配送サイズ: 19.7 cm x 38.1 cm x 49 cm	7.75 "H x 15" W x 19.25 "D
....重量: 7キログラム	15ポンド

マウントイヤークセサリー

Rane MP2015ミキサーには、マウントキット付属品が用意されているため、デスクやポータブルケースにマウントすることができます。これらのブラケット/ラックマウント・イヤークセサリーは、各側面に3本のネジで簡単に取り付けられます。金属は、黒色の粉末コーティングされた電気亜鉛メッキ.075インチ・スチールです。ミキサーの背面に接続用のスペースがあり、コネクタに応じて4インチ (10 cm) まで拡張できます。ミキサーの前面にあるヘッドホン端子にもアクセスできるように取り付けてください。

1. 木製サイドパネルを取り外して、ラックマウント・イヤークセサリーを取り付けます。
2. 木製サイドパネルがない場合、MP2015ミキサーの幅は30.5cm (12インチ) です。
キャビネットにミキサーを設置するために、両側で1/4インチ (6mm) 以上の幅が必要です。
3. キットに同梱されている1辺3本のネジを使用して、ラックマウント・イヤークセサリーを取り付けます。
警告: 6-32 x 3/8ネジのみを使用してください。長いネジはミキサーに損傷を与え、保証の対象外となります。
4. ラックマウント・イヤークセサリーを取り付けることで、ミキサーの両側からそれぞれ19mm長くなり、全幅が34.3cmになります。



EU適合宣言

製品モデル: MP2015

プロダクトタイプ: プロフェッショナル・オーディオ信号処理

メーカー: Rane Corporation

住所: 200 Scenic View Drive, Cumberland, RI 02864 USA

この宣言は、Rane Corporationの単独責任の下で発行されます。

上記の宣言対象は、関連する連邦法に準拠しています。

2014/35 / EU 低電圧指令

2014/30 / EU 電磁適合性指令

2012/19 / EU 廃電気電子機器指令

2011/65 / EU 有害物質指令の制限

2001/95 / EC 一般的な製品安全指令

申告への適合に関連して使用されている、関連統一基準への証明書:

EN60065:2002/A1:2006/A11:2008/A2:2010/A12:2011

オーディオ、ビデオおよび類似の電子機器の安全性。

EN55103-1:2009/AM1:2012

マルチメディア機器の排気ガスの適合性。

EN55103-2: 2009

プロの電子AV機器のイミュニティの互換性。

EN50581: 2012

電子製品のRoHS査定に関する技術資料。



追加情報:

Environment E2

2015年にCEマークが初めて貼付

お客様が保証を受けるには、他の機器との相互接続に高品質のシールドケーブルを使用する必要があります。製造業者が明示している以外の改造や変更は許されません。この機器の使用者は、製造者の書面による同意なしに機器が改造された場合、EU整合法令の遵守の全責任を負います。

EN55103-2イミュニティの結果: THD + N: 4 dBu, 400 Hz, BW 20 Hz ~ 20 kHz

テストの説明	測定	条件
RF電磁場耐性		
80MHz - 1000MHz, 1kHz AM, 80%深度, 3V / m	<-68 dB	
1400MHz - 2700MHz, 1kHz AM, 80%深度, 3V / m	<-70 dB	
伝導されたRF妨害耐性		
150kHz - 80MHz, 1kHz AM, 80%深度, 3V rms	<-56 dB	
磁場耐性		
50Hz - 10kHz, 3.0-0.3A / m	<-92 dB	
コモンモード・イミュニティ (信号ポート) 帯域通過: 4 dBu, 1/3 オクターブ		Bandpass re: 4 dBu, 1/3-octave
50Hz - 10kHz, -20dBu	<-59 dB	

Rane Corporationの署名を受けた代理人

発行場所: Mukilteo WA USA

発行日: 2017年5月17日

名前: Greg Frederick

役職: コンプライアンス/エンジニア

署名:



無料修理規定

- 保証期間内に故障して、無料修理をご依頼の場合は、お買上げの販売店にご依頼の上、本書をご提示ください。
- ご贈答品などで本書に記入してあるお買上げ販売店に修理をご依頼できない場合には弊社カスタマーサポート部へご相談ください。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - ご使用上の誤り、及び不当の修理や改造による故障および損傷。
 - お買上げ後の取付け場所の移動、落下などによる故障および損傷。
 - 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷。
 - 消耗部品を取替える場合。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書にご愛用者名、お買上げ日、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
- inMusic Japanは、製品の使用不可能または不具合に基づく損害、また法律の定める範囲内での人身傷害を含める、いかなる二次的、及び間接的な損害賠償の責任を負いません。保証条件や本保証に基づきinMusic Japanが負う責任は、販売国の国内でのみ有効です。本保証で定められた修理は、inMusic Japanでのみ行われるものとします。

* この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後についてご不明の場合は、お買上げの販売店または弊社カスタマー・サポート へご相談ください。

保証書	
製品名:	
製造番号:	
ご購入日:	
保証期間:ご購入日から一年間	
お客様	販売店名
お名前:	ご住所:
ご住所:	
お電話:	お電話:

inMusic Japan株式会社 カスタマー・サポート
〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23 オーク南麻布ビルディング6F
お問い合わせ: rane-dj.jp/support

- ・ 本書に記入のない場合は、有効となりませんので、直ちにお買上げの販売店にお申し出ください。
- ・ 本書は再発行いたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。
- ・ 本書は日本国内においてのみ有効です。

UGRANEDJMP201510